

校長室だより(No.10)

令和3年6月17日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

「学びのあしあと 5年生 兵庫型体験学習」

円山川公苑の様子です



野外炊事の様子です



スノーケルセンターの様子です



兵庫型「体験教育」では、子どもたちが困難にくじけずたくましく生きる力をはぐくむ教育を推進します。現在、小学校の「環境体験事業」、「自然学校」、中学校の「わくわくオーケストラ教室」、「トライやる・ウィーク」など、子どもたちが「命の大切さ」や「生きる喜び」を実感する教育活動や、環境学習・教育などを発達段階に応じて展開しています。

5年生にとっては学年の大きな行事の一つである自然学校ですが、例年は4泊5日で行います。今年は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため宿泊なしで行います。春日地域では、5つの小学校が合同または、分散で、丹波市青垣町の丹波少年自然の家と豊岡市の円山川公苑を中心に活動を行います。黒井小学校独自のプログラムでは、磯観察やチーズ作り体験、氷上回廊水分れフィールドミュージアムの見学を予定しています。いつもとは違った自然学校ですが、「社会体験」「文化体験」「自然体験」「身体を使った体験」「心の体験」などを通していろいろなことを学んでくれることでしょう。

5日間の自然学校ですが、先にも述べました大きく分けて5種類の体験ができるように計画しています。

1つ目は、「自然体験」です。地域の森での体験やスノーケルセンターでの磯観察などがこれにあたります。ふだんからよく知っている丹波(山)の自然ですが、草木の名前や葉の形となると大人でも不確かなものです。しっかりふれてほしいと思います。

2つ目は、「文化体験」です。野外炊事での火おこし体験や婦木農場でのチーズ作り体験などです。氷上回廊水分れフィールドミュージアムでは、地域の水にかかる文化についても見学し、昔からの知恵や技術を学ぶこととなります。

3つ目は、自然学校そのものですが、集団でのルールを守ったり班や学校の仲間で協力して活動したりするいわゆる「社会体験」です。この集団生活での学びは大きいものと考えます。中学校に向けて、他の学校とともにしっかり身に付けてほしいところです。

4つ目は、「身体を使った体験」です。怪我や病気に気をつけて活動することや、カヌー・カヤック体験(円山川公苑で乗艇します。)などがこれにあたります。自分の身体や艇を自分でコントロールする大切な体験です。

最後が「心の体験」です。自然学校を通して、がまんをしたり、失敗して困ったり、成功して喜んだり、感動したりすることです。何よりこれを友達とともに体験することが大切だと思います。

いろいろな体験を通して、ひとまわりも、ふたまわりも成長してくれることを楽しみにしています。